

(中間評価)

イノベーティブマリンテクノロジー研究者育成

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：高知大学（総括責任者：脇口 宏）

プロジェクトの概要

本学の海洋科学研究における人材資材を結集した“イノベーティブマリンテクノロジー研究拠点”を組織するため、新規若手研究者採用制度により若手研究者を教員として配置し、新たな分野横断型海洋科学研究分野を開拓・展開できる海洋科学研究者の育成と世界水準の海洋新領域研究拠点の形成を目的とする。学長のリーダーシップの下に、将来有望な若手研究者育成を推進する“若手研究者評価支援機構”を設置し、公正で透明性のある教員採用制度・審査方法といった人材システム改革の全学への普及・導入に取り組む。人事の流動性と職・身分の安定性確保を両立しつつ、教育研究の恒常的な活性化が図れる人材システムを構築する。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関の組織改革の実施に合わせ、機関の強みである海洋生命科学研究分野の蓄積を活かし「イノベーティブマリンテクノロジー研究拠点」を創設し、テニュアトラック制（以下「TT制」という。）の導入によって、新たな分野横断型海洋科学研究分野を展開できる海洋研究者を育成するという明確な目標に基づいた制度設計は評価できる。

国際公募と公正で透明性のある審査体制を構築しており、多様な人材を採用し、研究環境も整備され、海洋資源の活用など地域性を活かした研究に取り組んでいることは評価できる。中間評価、テニュア審査の手順や基準も策定し、テニュア配属部局へのスムーズな移行を目指しており、テニュアトラック若手研究者（以下「TT若手」という。）の部局を超えた連携などの今後の取り組みを期待する。また、TT制の全学展開を目指しており、拠点型の制度設計を活かしつつ、部局型として定着させる新しい仕組みの設計もされており、定着に向けた今後の更なる努力を期待する。

- ・ **国際公募・選考・業績評価**：国際公募と透明性の高い工夫された選考方法で、多数の応募者の中から 6 名の優秀な若手研究者を採用し、外国籍研究者 1 名、女性研究者 2 名と多様な人

材を採用していることは評価できる。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT 若手の研究拠点は三つのキャンパスに分かれているが、定期的な会合などを通じて連携と交流を図るとともに、地域との連携活動に取り組んでいることは評価できる。今後は、教育力や国際性を育成する仕組みなどの構築を期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：学長のリーダーシップの下、テニユアポストを準備し、TT 制を活かした組織改革を進めている。また、機関での PDCA サイクルを活用する体制が構築されていることは評価できる。今後は、本研究拠点の発展型で TT 若手の活躍拠点を継続すること、また、若手研究者の交流など TT 若手の活動が活きる施策への支援も期待する。
- **今後の進め方における取組**：TT 制の全学展開に向けた検討が進められ、学長裁量経費などの活用を考えた制度設計が進められており、既に医学系で先行導入が進んでいることは評価できる。今後は、全学展開への具体的な制度設計を速やかに具体化することを期待する。